

3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり

【施策 10】家庭の教育力の向上

★次期プラン★

現状	課題	施策の方向性・柱	目標(成果指標)	具体的な取組み(主なもの)
<p>◆<u>基本的な生活習慣を示す数値が全国と比較して低い(起床時間、朝食を食べる割合)数値になっている。</u></p> <p>*起床時間が午前7時以前となる子どもの割合 [小学6年生] 62.6%(H24) 《全国 78.6%》 [中学3年生] 52.1%(H24) 《全国 70.0%》</p> <p>*朝食を毎日食べている子どもの割合 [小学6年生] 83.4%(H24) 《全国 88.7%》 [中学3年生] 81.0%(H24) 《全国 83.9%》</p> <p>〔参考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午前7時台までに起床する就学前児童の割合(H21) 71.3% ・朝食を毎日食べている就学前児童の割合(H23) 93.0% <p>◆<u>家庭における親子のコミュニケーションの不足。</u></p> <p>*「家族の人が話をよく聞いてくれる」と感じていない子どもの割合 [小学6年生] 10.7%(H13) ⇒13.8%(H22) [中学3年生] 16.9%(H13) ⇒20.2%(H22)</p>	<p>○子どもが乳幼児期から、睡眠や食事などの基本的な生活習慣を身につけられるよう、保護者が家庭教育の重要性を認識し、子育てできる環境づくりを行うこと</p>	<p>〔方向性〕 <u>学習機会や情報の提供などによる家庭の教育力の向上</u></p> <p>〔柱〕 <u>○子どもの健全育成の基礎となる家庭の教育力向上</u> 家庭において、基本的な生活習慣や規範意識等を身に付けるとともに、親子のコミュニケーション力を高めることができるよう、学習の機会や情報提供、啓発活動を行うことにより、家庭の教育力の向上に取り組む。</p>	<p>○朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合(小学生) 目標値：100%(H31)</p> <p>○朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合(中学生) 目標値：100%(H31)</p> <p>○家族の人が話をよく聞いてくれる割合(小学6年生) 目標値：増加</p> <p>○家族の人が話をよく聞いてくれる割合(中学3年生) 目標値：増加</p>	<p>[子どもの健全育成の基礎となる家庭の教育力向上] <u>○家庭・地域への啓発事業(きほんのき)</u> 家庭の教育力を高めるため、未就学児の保護者を対象とした家庭教育リーフレット「きほんのき」を配布する。</p> <p>○北九州市子どもを育てる10か条の普及促進活動 子どもの基本的な生活習慣の定着や、家庭や地域の教育力の向上を図るため、本市の子育て・親育ちのためのルールである「北九州市子どもを育てる10か条」の普及促進に努める。</p> <p>○すくすく子育て支援事業 妊娠期から育児中にわたる母と子の健康づくり、育児不安などに対する専門的支援を柱として、母親学級、妊産婦乳幼児なんでも相談、両親学級、育児学級等を実施する。</p> <p>○のびのび赤ちゃん推進事業 子育ての孤立化を防ぎ、乳幼児の育成環境の確保を目的に、生後4か月までの乳児がいる家庭を専門職(助産師・保健師)や地域支援者(主任児童委員)が訪問し、子育て支援に関する情報提供等を行う。</p> <p>○親子通園クラスの運営及び保育の充実 発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ保育所での遊びや体験、相談を通じた支援を行う。</p> <p>○食を通じた乳幼児の健康づくり事業 妊産婦や乳幼児の食事に関する悩みや不安を解消するため、実習型離乳食教室(託児を行える施設へ委託)や、妊婦さんのための健康料理教室を開催する。また、乳幼児の食事、妊娠中の食事についてのポイントをまとめたリーフレットを作成・配布する。</p> <p>○親子ですすめる食育教室 乳幼児期からの正しい食事の仕方や望ましい食習慣の定着のために、幼稚園や保育所等において、入所児童の保護者を対象に乳幼児期の食育について栄養士の講話や調理実演等を行う。</p>

3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり

【施策 10】 家庭の教育力の向上

現状	課題	施策の方向性・柱	目標(成果指標)	具体的な取組み(主なもの)
<p>◆<u>核家族化の進展や地域のつながりの希薄化により、祖父母や近隣の住民等から、日々の子育てに対する助言、支援や協力を得ることが困難な状況となっている。</u></p> <p>*子どもを叱りすぎているような気がする保護者の割合 [就学前児童] 45.3% [小学生] 37.3%</p> <p>*子どもとの接し方に悩んでいる保護者の割合 [就学前児童] 9.6% [小学生] 9.2%</p> <p>*子どもの世話を怠ってしまう保護者の割合 [就学前児童] 7.3% [小学生] 3.1%</p> <p>*育児方法に悩んでいる保護者の割合 [就学前児童] 4.7% [小学生] 2.7%</p>	<p>○子育て中の保護者が、地域とのつながりの中で、子どもとの接し方や家庭での教育の仕方など子育てに関する知識を得ることができるような仕組みが必要</p> <p>○家庭教育に関心のある保護者とそうでない保護者の二極化傾向が見られるため、小学校入学前の早い段階からの家庭教育の啓発が必要</p>	<p>〔柱〕 ○<u>地域等と連携した家庭の教育力の向上</u> 地域等での様々な取組みを通じて、家庭の教育力の向上を図る。</p>	<p>○子育てが地域の人に支えられていると感じる割合 目標値：増加</p>	<p>[地域等と連携した家庭の教育力の向上] ○<u>親子ふれあいルームの充実</u> 子育て家庭の親子が気軽に集い、相互に交流を図る場を提供し、子育て相談の実施、地域の子育て関連情報の提供や子育てに関する講座等を行う。また、市民センターをはじめ、子育て支援団体、育児サークル等と積極的に連携しネットワーク化を図るなど、地域における子育て支援に取り組む。</p> <p>○<u>子育てにやさしいまちづくり(地域子育て支援)の推進</u> 身近な地域で子育てを支える取り組みをいくため、市民センターのフリースペースの充実や市民センターを拠点とした育児サークルの立ち上げなど地域の実情に応じた活動を支援する。</p> <p>○<u>家庭・地域への啓発事業(家庭教育学級)</u> 家庭の教育力を高めるため、保護者等が相互学習の中から習得できる機会である「家庭教育学級」を実施する。</p> <p>○<u>「子どもまつり」の充実</u> 家庭におけるコミュニケーションの促進を図るため、「子どもまつり」の中で親子のふれあい等を高めることができる催しを実施する。</p> <p>○<u>子育てネットワークの充実</u> 保護者が子育てに対する戸惑いや不安を解決し、子育ての負担を少しでも軽くするため、市民センターを拠点として活動するボランティア「子育てサポーター」を養成する講座を実施する。</p>
<p>◆<u>子どもたちの規範意識、自尊感情は、平成21年度に比べ向上しているものの、小・中学校ともに、若干全国を下回っている。</u></p> <p>*学校のきまりを守っている児童生徒の割合 [小学6年生] 88.5%(H24) 《全国 91.3%》 [中学3年生] 91.3%(H24) 《全国 92.3%》</p>	<p>○子どもたちの道徳心の向上とあわせて、非行や虐待を生まないための保護者への啓発等により、家庭においても子どもの規範意識や保護者の養育に関する責任感などを育むことが必要</p>	<p>〔柱〕 ○<u>非行や虐待を生まないための家庭の教育力の向上</u> 非行や虐待の未然防止はもとより、再発を防ぐため、地域や関係団体と連携しながら、家庭の教育力の向上を図る。</p>	<p>○<u>刑法犯少年の検挙補導者数</u> 目標値：減少</p>	<p>[非行や虐待を生まないための家庭の教育力の向上] ○<u>北九州市青少年の非行を生まない地域づくり推進事業(非行防止教室やメディアによる被害防止教育の推進)</u> 小中学校を対象に行っている非行防止教室や薬物乱用防止教室、メディアによる被害防止教室を、希望に応じて地域団体向けにも実施する。</p> <p>○<u>北九州市青少年の非行を生まない地域づくり推進事業(青少年育成会等推進事業)</u> 地域で青少年の健全育成や非行防止に取り組む団体の活動を支援し、親子でふれあい、絆を深める機会を提供する。</p> <p>○<u>保護者と学ぶ規範意識育成事業</u> 非行防止の基盤となる規範意識の育成を目的に、児童生徒と保護者がともに学ぶ規範意識育成学集會を実施する。具体的には、保護者の規範に対する意識や養育に関する責任感等の向上や、保護者の子育てに対する不安の軽減、また、児童生徒・保護者ともに規範を守ることの大切さの認識や規範を守る生き方に向けての展望がもてるような講演を、外部講師を招いて行う。</p>
<p>◆<u>近所の人に会ったときは、あいさつをすると回答した児童生徒の割合</u></p> <p>*近所の人に会ったときは、あいさつをすると回答した児童生徒の割合 [小学6年生] 90.5%(H25) [中学3年生] 85.8%(H25)</p>				<p>○<u>家族のためのペアレントトレーニング</u> 虐待を行った保護者に対する「家族再統合コース」や、養育不安のある保護者に対する「養育不安コース」のプログラムの実施など専門的な支援を行う。</p>
<p>◆<u>少年非行の防止に大きな役割を果たすと考えている人の割合として、「家庭」を上げる人の割合が最も高い。また、非行の原因として考えるものとして、保護者の無関心や虐待の経験を上げた人の割合が多い。</u></p> <p>*非行少年に関する世論調査(H22年内閣府)において「少年非行の防止に特に大きな役割を果たすものは何か」という質問に対する回答(割合) [家庭] 76.4% [地域社会] 12.9%</p> <p>*非行少年に関する世論調査(H22年)において「どのような少年が非行を起こしていると思うか」という質問に対する回答(割合) [保護者が教育やしつけに無関心な家庭の少年] 55.9% [保護者などから虐待を受けたことがある少年] 36.2%</p>				

3 子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり

【施策 10】 家庭の教育力の向上

☆参考：現行プラン☆

現状・課題	課題	施策の方向性・柱 (基本施策)	目標(成果指標)	具体的な取組み(主なもの)
<p>◇就寝時間や起床時間の遅れ、朝食を食べる割合の低下など基本的な生活習慣が乱れている。</p> <p>◇子どもたちの規範意識、自尊感情が、小・中学校ともに、全国を下回っている。</p> <p>◇教師が感じる子どもの変化についても、小・中学校ともに子どもの「我慢強さ」、「先生や大人を尊敬する気持ち」などが低下している傾向がうかがえる。</p> <p>◇家庭における親子のコミュニケーションの不足。</p>	<p>○乳幼児期から、睡眠や食事などの基本的な生活習慣を身につけられるよう、保護者が家庭教育の重要性を認識し、子育てできる環境づくりを行うこと</p> <p>○学校における道徳教育の充実とあわせて、家庭における教育力の向上を図り、子どもの規範意識などを育むことが必要</p> <p>○親子間で良好なコミュニケーションがもてる家庭環境づくりを推進することが必要</p>	<p>[方向性] 学習機会や情報の提供などによる、家庭の教育力の向上</p> <p>○子どもの健全育成の基礎となる家庭の教育力の向上</p>	<p>○朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合(小学生)</p> <p>○朝食を毎日「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答した児童生徒の割合(中学生)</p> <p>基本的な生活習慣を身につけるために必要であると感じており、施策を着実に推進していく上で重要である。 目標値:100%(H26)</p> <p>○家族の人が話をよく聞いてくれる割合(小学6年生)</p> <p>○家族の人が話をよく聞いてくれる割合(中学3年生)</p> <p>親子のコミュニケーションの不足を感じており、施策を着実に推進していく上で重要である。 目標値:100%(H26)</p>	<p>○家庭・地域への啓発事業</p> <p>○PTA活動との連携</p> <p>○「子どもまつり」の充実</p> <p>○育児教室等の充実</p> <p>○食を通じた乳幼児等の健康づくり</p>